

* テキスト (各自購入)

・ さやわか『文学の読み方』星海社新書、講談社、2016年

- ・ 又吉直樹『火花』文春文庫
- ・ 村上春樹『風の歌を聴け』講談社文庫
- ・ 田山花袋『蒲団・重右衛門の最期』新潮文庫
- ・ 小林多喜二『蟹工船・党生活者』新潮文庫

など

* 参考文献

- ・ さやわか『一〇年代文化論』星海社新書、講談社、2014年
- ・ 東浩紀『動物化するポストモダン オタクから見た日本社会』講談社現代新書、2001年
- ・ 大塚英志『キャラクター小説の作り方』星海社新書、講談社、2013年

◎実際の演習の進め方

○演習の前

- 1 発表者以外の参加者は、Slackで発表前週の日曜日までにテキストの取り上げられる箇所についての質問・感想を投稿する (Slackについては履修登録期間後に伝える)。
- 2 発表者は自分自身の関心に基づきつつ、他の参加者の質問・感想に答えるような発表の準備をする。必ずプリントを用意する。プリントの内容は、発表するテキストのまとめ、テキストに書かれた内容の背景となる出来事についての調査、テキストについての自分の見解・疑問点からなる。プリントは発表前日の水曜午後6時までにSlackに投稿する。プリントは受講者各自で印刷して翌日の演習までに読んでおく。

○演習自体の進め方 (登校が可能になるまではZOOMを使用)

- 1 発表者が発表 (20~30分程度) を行った後、司会 (次回の発表者が務める) は内容・ポイントをまとめ、不明な点を発表者に確認し、さらに他の参加者に質問・意見を求める。
- 2 参加者は自分が提出した質問がどのように答えられていたかを検討し、不明な点があればあらためて質問する。また、発表のそれ以外の点についても質問・意見を述べる。
- 3 発表者は参加者 (司会者を含む) の質問・意見に答え、司会者は発表者と他の参加者の質疑応答が円滑に行われるように、必要に応じて問題の整理をする。

○演習終了後

- 1 参加者 (発表者・司会者も含む) は演習の時間に発言できなかったことや演習についての感想・反省をEメールで発表当日の水曜日夜12時までにSlackに投稿する。

◎成績評価

以上の演習の進め方に基づいて、Slackによる質問・発表・司会・発言等の演習への参加のしかたと出席によって評価する。なお、発表者・司会者の遅刻・欠席は大きな減点の対象となる。

前期に2割以上の欠席をした場合は単位を認定しない。また大幅な遅刻は欠席と同等と見なす。

◎演習の連絡

基本的に毎回の演習の時間に諸連絡を伝えるが、必要に応じてSlackを使った連絡も行う。

参考：今までにこの演習で作成した電子書籍と4年生の卒業論文・卒業制作集は下記で公開。

<http://p.booklog.jp/users/seminarkuwa>

